

令和7年度 第3回 北浜中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年11月26日（水） 13:30から15:30
2 開催場所 北浜中学校 小会議室
3 出席委員 大村 仁、大岡成光、斎藤千朝、波多信広、古谷一平、原崎佳久、田中隆雄
4 欠席委員 高林博史、椿田育代
5 学校支援コーディネーター 渥美英明、竹内真哉、松嶋のぶこ
6 学 校 岡田芳樹（校長）水谷裕士（教頭）、井ノ口さおり（CS担当）鈴木敬子（CSディレクター）
7 教育委員会 山本美世絵
8 傍聴者 なし
9 会議録作成者 CSディレクター 鈴木敬子
10 議長の選出

司会から議長の選出について意見を求めたところ、会長から波多委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- (1) 全国学力調査結果及び考察
- (2) 北中応援隊・学校支援ボランティア（職場体験学習・虹色文化発表会・体育祭）取組についての振り返り
- (3) 学校生活の様子
・生徒指導より

12 会議記録

司会の教頭から、委員総数9名のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

- (1) 全国学力・学習状況調査（対象3年生）のアンケート分析より、本校のグランドデザインの柱となる「連携推進」「授業改善」「集団改善」に分類し意見をいただきたいことについて主幹教諭から説明があった。

—連携推進—

- ・部活動の関わり方はどうなりますか。（斎藤委員）
→令和8年9月からは、土日は先生方は部活指導に関わらないことが前提。浜松市では「はまくる」という名前で地域クラブを登録認定し、優先的に学校等の施設を利用して活動できるように進めている。ただし、土日のどちらかは半日だけというような条件がある。その条件を外れたら民間のスポーツクラブでとなる。今、困っているのは結局指導者がそ

んなにいない事。例えば野球なら環境も整っているが、他の部活では外部コーチがいても、来年の9月以降の土日は未知数。皆さん知っている中で指導者を引き受けてくれそうな人はいますか。平日は職員の指導2時間程度までOKですが、家庭の事情（小さい子がいる等）もあるので、18時まででは大変。自分としては17時半までと思っている。各部活について、地域の中で指導者を探ししたい。（校長）

- ・具体的にどの部活か。（波多委員）

→一覧表を作つて提示したい。（校長）

- ・保護者としては、中学時代に部活で体を作つてほしいとの思いがあると思う。（斎藤委員）

- ・土日に子供の活動の場をちゃんと作ることが大事だと思う。（校長）

- ・大会はなくなるのか。（波多委員）

→大会はなくならないが、部活として土日の練習試合はできない。地域クラブが立ち上がりれば、クラブ同士ができる。顧問は指導者として申請することができる。土日にそこにいてくれる人が欲しい。（校長）

- ・太鼓部や吹奏楽部が地域の行事に参加し好評だが、来年は今年ほどたくさん行けなくなると思う。私たちの手を離れると、やりとりも学校を通さないので難しい。（教頭）

- ・1年生からボランティアに関わっていく子供もいる。受け容れる場があることは大事。地域の助けになることで、その子の自己肯定感も高まると思う。（原崎委員）

- ・地域との関わりを部活だけに頼つているとやりにくい。これからは部活動が縮小したことにより子供たちがボランティアを積極的にしていくのもよい。子供たちがやりたいボランティアを通して地域とつながり、必要とされることはとても大切である。（校長）

—授業改善—

- ・「生徒が堂々と意見を述べる力」のために、失敗してもいいからどこかで言える場が欲しい。地域の人や保護者を招いて15歳の主張のような発表をすればどうか。（大村委員）

- ・アウトプットする場が欲しい。（校長）

- ・小学校では学習発表会で発表している。ディベートを行うのはどうか。（波多委員）

- ・発表会や弁論大会は有効だと思う。（大村委員）

- ・タブレットを使ってプレゼンテーションをしたり、生徒が自分で授業をしてみることも良いのではないか。（松嶋コーディネーター）

- ・高校の野球部で自分のアピールで動画を作つたら、どの子もまじめに

熱心に取り組んだので、生徒にもさせたらどうか。（波多委員）

- ・グループに分かれて作る方法もある。（渥美コーディネーター）
- ・タブレットに慣れている北浜中だからできること。（波多委員）
- ・SNSを活用した情報共有と意見交換できると発信する力になるのではないか。（竹内コーディネーター）

→新聞に記事に対しての意見を投稿している生徒もいる。（校長）

- ・自分が投稿したものに対して「イイネ」がつくと意欲につながる。（竹内コーディネーター）
- ・参観して思ったが、生徒が「自分の来年度」を1文字や3文字で表し皆の前で発表したりする等、本人の声で堂々と意見が言えるものがあつても良い。また生徒が自分で授業を作ると本人の理解も進むのではないか。（田中委員）

—集団改善—

- ・教員に相談しやすいと感じている生徒が78パーセントにとどまっている原因について、御意見をいただきたい。（波多委員）
- ・そのことが問題というより、中学生は友達や自分の中で解決していくとする時期なのでこういう数字になっていると思う。困った時に何でもかんでも先生に相談する時期ではない。（大村委員）

→そういうことを聞くと新鮮。学校側は相談できるが8割を切ると教員が悪いのかと思ってしまう。しかし、本当に困った時に相談できるのが教員であってほしい。（校長）

- ・生徒に自己肯定感や将来への希望を持たせるために何ができるかについての御意見をいただきたい。（波多委員）
- ・今の時代、将来の目標を早くから決めすぎではないか。まだ漠然とした未来でも良いのではないか。（大村委員）
- ・職業講話でも、早くから決めていた人ばかりではないことを聞いている。尊敬している父親と同じ職業についている人もいる。（校長）

(2) 北中応援隊・学校支援ボランティア取組についての振り返り

竹内コーディネーターより活動報告・教頭より振り返り報告

- ・今年いろいろやってきて（去年からのことも含め）不具合も多少出たので、すりあわせて良い方向に向かっていきたい。（古谷委員）
- ・体育祭の時に法被の不足について3年主任から直接相談があつて対応ができたのは、やってきたことの成果だと感じられた。（原崎委員）
- ・倍小でやってきたことと小中では違うが、部活動の指導者を探す等有効に使えると思う。（渥美コーディネーター）
- ・虹色文化発表会での子供たちの言葉が大変良かった。（齋藤委員）

- ・行事を通して、特に3年生が大きく成長し、1・2年生も良い影響を受けています。地域の方々の温かい見守りのおかげで学校は落ち着いた環境にある。（校長）

（3）学校生活の様子 生徒指導より

- ・不登校、校内学びの教室等について
インターネット上のトラブル増加に対応するため啓発活動を継続している。体育祭の縦割りグループの取組は生徒間の距離を縮めるのに有効であった。

13 その他報告事項等

- ・今後の予定

第4回学校運営協議会 令和8年 2月10日（火）午後1：30～3：00